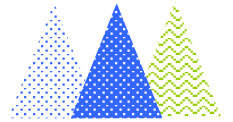




# 伊那ロータリークラブ



事務所 伊那市西町5016-2 TEL(72)0077 例会日 毎週木曜日 会場くぬぎの杜 TEL(78)1121  
 会長 山田 益 幹事 唐澤幸利 会報委員長本田敏和 第3026回 例会2024.4.18 No.1686



世界に希望を生み出そう

2023-24 年度 RI テーマ

CREATE HOPE  
In the WORLD

## ソング それでこそロータリー

### 会長談話 山田 益会長 「創業者」

本年 1/25 の第 3016 回例会に続いて「ルビコン(株)創業者: 登内英夫」さんについて紹介したいと思っています。

登内さんは生涯二人の向山さんの背中を見つめてきて大変お世話になってきたと書かれています。お一人は登内さんと同じ手良村出身の向山幹夫工学博士です。向山博士は当時の国内の「電気製鋼」の研究の第一人者で県内南佐久の小海町にも会社を興されました。もうお一人の向山さんは、登内さんがコンデンサーの製造会社を興される頃から更に県議員になられるまで大変お世話になったと話されていた向山一人先生です。向山先生は常に伊那谷に農業だけでなく電子産業で地域の発展をしなければと強く話されていました。そしてそのように「KOA(株)」を大きくしてきたし、登内さんの興された「ルビコン(株)」と共に「伊那谷に太陽を」の言葉を実践されてきました。

登内さんは終戦を台湾で迎えて一年後の 1946 年 (S21 年) に伊那に戻り向山先生にお会いしてそれから数年間はいろいろの物造りをしてきました。そして 1953 年 (S28 年) 苦難の中、コンデンサーの製造の「信英通信工業」を設立してスタートしました。社名は「信州の英雄になろう」という思いを込めました。

この年 1953 年 2 月には NHK が、続いて 8 月には日本テレビがテレビ放送を開始し、大手電気器具メーカーだけでなく東京や大阪の周辺に小さなテレビ会社が雨後の筍のようにたくさん生まれました。コンデンサーの業界もテレビ用にアルミ電解コンデンサーが使われることになったので活性化し、この事業に参入する企業も相次ぎました。そこで登内さんは、ようやく会社の骨格が固まってきたので、1955 年商標「ルビコン」を日本国内登録の申請し認可されました。1990 年、社名を「信英通信工業」から「ルビコン(株)」とし現



在に至っています。

**幹事報告** 別紙をご覧ください

**出席報告** 会員数 55 名 内出席免除者 17 名  
 出席者 29 名 事前ミーティング 0 名 出席率 63.04%

### ニコニコボックス

・山田 益 本日の会長談話が、PC の故障で消えてしまい、徹夜でした。

### 地区研修・協議会報告

#### ○会長・幹事部会 平出吉範会長エレクト

RI 会長エレクトより RI2024-25 年度のテーマ「The Magic of Rotary」が発表されたこと、主な方針として 1. 行動計画 (方針) を理解し、クラブ計画を立案し推進する。2. 継続してきたことと、新しい変化のバランスを取る。3. 平和のために行動する。の 3 つであります。単年度の計画ではなく継続性をもった活動を念頭に行動計画を立案していこうというものです。そのためには戦略計画委員会の役割が重要視されてくると考えます。1. 参加者の基盤を広げる 2. 参加者の積極的なかかわりを促す 3. 研究と革新、およびリスクをいとわない適応力を高める 4. 結果としてより大きなインパクトをもたらす。などです。

次に地区標語として「ロータリーは、あなたと私が出会うところ。そして、次の世代に何をわたせるか、共に考え行動しましょう!」。スローガン「LIFE 5(5%アップ)」がありました。具体的には会員数 5%アップ、地区で新しいクラブ 5 つ設立、寄付金活動 5%アップがあります。また小学校の授業への奉仕を計画し、若年保護者へのクラブ加入を促進することによって「夢の実現プロジェクト」を推進して欲しいとの願いがありました。

また、地区として新しく DEI 研究会の新設。入会 1 年未満の新会員への「新会員セミナー」の催。奉仕委員会の連携強化のために合同の会議の計画。などの説明がありました。

最後に 2600 地区人頭分担金の値上げについて協議がありました。人頭分担金を毎月 200 円、通



年で 2400 円値上げしたい、この値上げでこの先少なくとも 3~5 年の値上げは行わないとの説明があった。採決の結果、賛成多数にて確定されました。

### ○会員増強部会 山崎秀亮次期幹事 委員会の目的・目標

「会員増強」の意味と意識を浸透させ、単なる数字合わせの会員の増員ではなく、年間の戦略計画を立てて、それにおける検証を行います。



さらに具体的には 2026 年度までには 2600 地区内の会員数を 2000 名に回帰し、クラブ数は 55 となる目標を掲げます。会員数 1000 名増  
クラブ数 5 クラブ増

### 今年度の計画・重点事業

1. 2600 地区内のクラブを訪問し、「会員増強とは何か」を問いかけて意識高揚を行う
2. 委員会の活性化をさらに進め、行動力と活力のある委員会にする
3. 適時セミナー(グループ単位)を開催(新会員・活性化)して会員のロータリースキルを向上

### ○公共イメージ向上部会

#### 本島清隆次期クラブ会報委員長

目的達成に向けての今年度の計画・重点事業は「予算、マンパワーに制約がある中で、白鳥次期ガバナーから示された運営方針に沿った広報展開を今後委員会で検討していきます。特に「夢の実現プロジェクト」について、活動の広がりを目指すとともに、その必要性についても社会に訴求し得る広報の在り方について研究していきます。



また、地区大会についても、ロータリー活動への理解と賛同を促す絶好の機会でもあり、効果的な広報展開について研究を進めていきます。公共イメージ向上部会として、今後、各委員会とも連携し、広報計画を作成していきます。具体的にはまずは自クラブの会員にロータリー活動を深く理解してもらう取り組みを行う。マスコミへ各イベントを事前周知、ツイッター、フェイスブックに加え、ティックトック、インスタグラムのデジタルツールを活用し、リツイートで拡散を行っていくなどの意見が出されました。



### ○職業奉仕部会

#### 唐澤洋祐次期職業・社会奉仕委員長

### 1 委員会の目的・目標

友愛と寛容の精神でいろいろな違う職種の人達との質の高い異業種交流によって、自己研鑽の修業の場として己の人間力を高めて、自分の職業を通じて人のため、地域のため、世の中のために貢献する。

### 2 今年度の計画・重点事業

「ロータリーから信州を元気に」するため会社や地域で「心と体の健康」を推進する。

### ○青少年奉仕部会

#### 城取健太次期青少年奉仕委員長

### ○委員会の目的・目標

青少年奉仕委員会は、青少年交換プログラムの 3 つの事業をとおして、世界平和をはじめとする RI の目的に役立つ人材の育成を行います。



### ○今年度の計画・重点事業

インターアクトクラブ (IAC) ローターアクトクラブ (RAC) ロータリー青少年指導者養成プログラム (RYLA) 青少年交換 (YEP) と学友会(財団奨学生・米山奨学生)の連携を深めて、ROTEX (ローテックス) による、現役の青少年奉仕学生の啓発を進めたいと考えます。

### ○ロータリー財団部会

#### 唐木章次期国際奉仕財団委員長

グローバル補助金推進賞委員会では、グローバル補助金制度および対象となる国際奉仕活動について説明し、多くのロータリアンに活動推進を呼びかけ、補助金の申請方法を含め理解を推進する事を目標としています。



次に地区補助金小委員会では、地区ロータリークラブが地域社会での奉仕活動をより充実、活性化する事業を行うため、ロータリー財団、2600 地区補助金規定に基づき補助金支援を公平公正に行い、またその財源となる財団寄附の推進を促す事を目的としています。資金推進小委員会は、地区が設定した寄付目標に従ってその金額が達成出来る様に支援する活動を行い、またポリオ根絶のための支援資金につながるロータリーカードの普及に努めます。目標は、年次基金：1 人 150 ドル以上、ポリオプラス：1 人 30 ドル以上、ロータリー平和センター：1 人 200 円以上、恒久基金：1 クラブ 1,000 ドル以上、年次基金・ポリオプラス：ゼロクラブ ゼロ、ロータリーカード加入件数：個人カード 100・クラグカード 26 です。

特にポリオについては、発生者が世界であると僅かになって来ましたので、ゼロを目指す事と、感染者がゼロになってもポリオワクチンの投与は継続しなければならないので、この事業は継続して行かなければならない。という研修でした。

### ○デジタル化推進部会

#### 唐木拓地区デジタル化推進委員会副委員長

当日は、午前 10 時に集合し、機器のセッティングやズームでのリハーサルを実施しました。お昼を食べ 13 時より始まると、ズームで入室している方の名前の変更作業を手分けして実施し、分科会が始まると、各ミーティングルームへ割り振りしました。引き続き、デジタル化推進に向けて取り組んでいきます。

